

# 公益財団法人

## 石巻市芸術文化振興財団

- (1) 情報公開シートⅠ（PDCAサイクルシート）
- (2) 情報公開シートⅠの補足資料
- (3) 情報公開シートⅡ（財務諸表等）
- (4) 情報公開シートⅡの補足資料
- (5) 法人に対する市の関与の考え方

# 第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

1 作成年月日・市所管部署

作成年月日	平成 25 年 12 月 7 日
-------	------------------

市所管部署	石巻市 教育委員会生涯学習課
-------	----------------

2 法人名称等

法人名称	公益財団法人石巻市芸術文化振興財団
法人所在地	石巻市 成田字小塚裏畑54
設立年月日	平成 1 年 2 月 22 日
代表者職・氏名	理事長 阿部 和夫

設立目的・経過
目的：芸術文化事業を展開することにより、広く芸術文化及び地域社会の発展に寄与する。 経過：H1～市民会館・明芳館・友心館・文化センター（H8～）の管理受託。H16スポーツ振興財団を統合。H18～H23市民会館・文化センターの指定管理者。

3 定款上の事業内容

- (1) 芸術文化活動の普及振興に関する事業
- (2) コミュニティ活動の促進及び支援に関する事業
- (3) 芸術文化活動及びコミュニティ活動の推進を目的とした公共施設での管理運営に関する事業
- (4) その他、目的を達成するために必要な事業
- (5)

4 出資・出捐の状況

資本金・基本財産総額	石巻市出資・出捐額	石巻市出資・出捐割合	市以外の出資・出捐者	市以外の出資・出捐額	市以外の出資・出捐割合
101,058 千円	100,000 千円	99.0% %	個人	1000 千円	1.0% %
			個人	50 千円	0.0% %
				千円	0.0% %

※出資額が多い順に上位3者（個人は「個人」と表記）を記載

5 役員・職員の状況

(1) 役員状況

	H22期末	H23期末	H24期末
常勤	1	1	1
うち市職員	0	0	0
うち市退職者	1	1	1
非常勤	13	13	13
うち市職員	4	4	4
うち市退職者	0	0	0
計	14	14	14
うち市職員	4	4	4
うち市退職者	1	1	1

(2) 職員状況

	H22期末	H23期末	H24期末
常勤	18	16	15
うち市職員	0	0	0
うち市退職者	1	1	1
非常勤	0	0	0
うち市職員	0	0	0
うち市退職者	0	0	0
計	18	16	15
うち市職員	0	0	0
うち市退職者	1	1	1

※市職員（及び市退職者）とは、市の常勤の特別職及び一般職の者（及びそれらの職にあった者）で、法人の役職員に就任している者をいう。

6 経営理念・方針

石巻市にふさわしい芸術文化の振興と心豊かな市民生活の形成による地域社会の発展に寄与する公益財団法人の役割を果たす。

平成25年4月1日に公益財団法人として新たにスタートしたが、これまで以上に公共性・公益性が重視されるとともに、さらなる効率的かつ効果的な法人運営が求められる。このような状況下、各種事業を継続的・安定的に展開できるよう常に検討を行いながら、地域や各関係機関との連携をも深め、質の高いサービスの提供に努める。

## 第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

### 7 中期的な経営目標・事業計画

目標項目・指標	単位		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度期
事業実施に係る 総集客数	名	目標 計画	/	5,000	5,500	6,000	6,500
		実績					
目標・指標の説明			主たる目的である芸術文化の普及振興状況をはかる一つ的手段として集客数を掲げる。しかしながら、目的の達成度合いを人数や件数のみで読み取ることは困難であり、実施に至るまでの経過や実施目的及び内容が最も重要視されるべきものと考えられる。H24は復興支援を主な目的に事業展開したことに対し、H25からは従来の事業形態へシフトしたため集客数が変動しており、今後の基準となるものである。				
目標未達の場合の要因分析							

### 8 主要事業の成果、課題

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
芸術文化活動の 普及振興事業	既存の文化施設及び民間施設等を活用し実施した。	震災後の文化的活動として大いに歓迎された。 大ホールが存在しないため事業規模が限定された。	震災直後であったため事業予算を確保できず、資産の中から充当した。H24では事業実施に係る委託契約を市と新たに締結したことにより、予算確保が可能となった。
事業の公共性、 公益性	芸術文化活動の普及振興を図ることを目的に実施するものであり、鑑賞や体験を通じて広く芸術文化の発展に寄与するものである。		

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
震災復興支援並 びにコミュニ ティ活動の促進 及び支援事業	仮設住宅団地内の集会所等において出前公演を開催し、芸術文化事業の鑑賞機会を提供することができた。	芸術文化活動を通し側面からの復興支援に努めた。 一過性でなく継続実施が必要である。	震災直後であったため事業予算を確保できず、資産の中から充当した。H24では事業実施に係る委託契約を市と新たに締結したことにより、予算確保が可能となった。
事業の公共性、 公益性	芸術文化活動の普及振興を図る目的と併せ、当財団が実施する芸術文化活動を通じ、震災からの復興支援を行い、ひいては地域コミュニティ活動の活性化を図るきっかけづくりに寄与するものである。		

### 9 市が期待する役割、市意見等 (担当部署記載)

平成元年の設立以来一貫して芸術文化の振興を担っており、公共施設の指定管理等を通して、効率的、安定的な運営を期待するものである。

震災により23年度期、24年度期と厳しい経営状況にあるが、これは法人を維持する一方で、少ない収入の中で事業展開せざるを得なかった結果である。

しかしながら、独自の給与削減等や資産の取崩しに加え、新たに仮設集会所の管理、舞台管理等委託料増加により、25年度期以降回復の兆しは見える。さらに、26年度期以降、遊楽館・ビッグバン等の指定管理が見込まれれば、震災前の水準に近づき、またそれ以上の収益をあげることも可能と思われ、経営の安定が期待できる。

## 情報公開シート I 補足資料

No.	シート項目	補足の概要	詳細
1	7 中期的な経営目標・事業計画	事業の実施状況	<p>平成 24 年度までは、震災復興支援事業を中心として、学校や集会施設等を利用した無料の公演を数多く実施してきたが、25 年度からは文化施設を活用した、従来型（有料等）の舞台公演やイベントを実施することとし、毎年 500 名の集客数増を目標とする。</p> <p>H25：遊楽館等のホールを活用したコンサート等の実施及び学校アウトリーチ等の育成事業を継続的に実施。</p> <p>H26：遊楽館、ビッグバンのホール等を活用して、コンサートや伝統芸能等の公演を実施。幅広いジャンルの鑑賞者増加を目指す。</p> <p>H27：市内の文化ホールの他、大ホールの補完策として、アリーナ等を活用した公演を実施。</p> <p>H28：事業運営の安定化による収益の増、経費コスト削減により事業を効率的に展開し、H25 と比較して 1.5 倍程度の事業を実施。</p>
2	経営全般	東日本大震災による経営への影響と発生した課題	<p>震災前は文化センター、市民会館の 2 施設の指定管理と、施設等を活用した文化振興等にかかる事業の実施を主たる業務としていた。両施設とも被災したが、平成 23 年度については、改修・建直しのため休館（一部開館）が予定されており、代替事業としてビッグバン、遊楽館の舞台管理委託業務、市民文化ホールアドバイザー業務等が計画されていた。</p> <p>震災によりこれらの業務は停止、収入の大部分が断たれ困難な経営状況に陥った。経営回復への補完策を講じることが課題となっている。</p>
3	〃	今後の法人運営の見通し	<p>平成 25 年度は、経費削減に加え舞台管理業務における人件費の増額等により、3 期連続の経常損益減を回避できる見込みである。</p> <p>平成 26 年度以降は、河北総合センタービッグバン及び遊楽館の指定管理業務の受託が予定されており、これにより経営の安定化を図り、本来の設立目的である当市の芸術文化振興事業を担う財団としての運営を目指す。</p>

## 第三セクター情報公開シートⅡ（財務諸表等）

団体名称	公益財団法人石巻市芸術文化振興財団
------	-------------------

## 1 財務諸表（金額単位：千円）

貸借対照表 (B/S)	借方(科目)	平成22年度期	平成23年度期	前期比	平成24年度期	前期比
	流動資産	57,838	22,006	-62.0%	18,348	-16.6%
うち 現金・預金	54,934	11,661	-78.8%	15,653	34.2%	
固定資産	146,957	115,689	-21.3%	115,995	0.3%	
(1) 基本財産	120,548	101,050	-16.2%	101,058	0.0%	
(2) 特定財産	21,296	13,507	-36.6%	14,065	4.1%	
(3) その他の固定資産	5,113	1,132	-77.9%	872	-23.0%	
資産の合計	204,795	137,695	-32.8%	134,343	-2.4%	
	貸方(科目)	平成22年度期	平成23年度期	前期比	平成24年度期	前期比
流動負債	19,434	7,384	-62.0%	8,947	21.2%	
うち 短期借入金	0	0		0		
固定負債	11,795	13,507	14.5%	14,065	4.1%	
うち 長期借入金	0	0		0		
負債合計	31,229	20,891	-33.1%	23,012	10.2%	
正味財産	173,566	116,804	-32.7%	111,331	-4.7%	
指定正味財産	120,548	101,050	-16.2%	101,058	0.0%	
うち 基本財産への充当額	120,548	101,050	-16.2%	101,058	0.0%	
うち 特定資産への充当額	0	0		0		
一般正味財産	53,018	15,754	-70.3%	10,273	-34.8%	
うち 基本財産への充当額	0	0		0		
うち 特定資産への充当額	21,296	13,507	-36.6%	0	-100.0%	
負債・正味財産の合計	204,795	137,695	-32.8%	134,343	-2.4%	

正味財産増減計算書	科目	平成22年度期	平成23年度期	前期比	平成24年度期	前期比
	一般正味財産増減の部	3,316	▲ 37,264	-1223.8%	▲ 5,481	-85.3%
経常増減の部	3,502	▲ 37,264	-1164.1%	▲ 5,481	-85.3%	
経常収益	176,948	69,895	-60.5%	90,396	29.3%	
経常費用	172,904	103,405	-40.2%	95,805	-7.3%	
評価損益等計(法人税等)	▲ 542	▲ 3,754	592.6%	▲ 72	-98.1%	
経常外増減の部	▲ 186	0	-100.0%	0		
経常外収益	0	0		0		
経常外費用	▲ 186	0	-100.0%	0		
一般正味財産期首残高	49,702	53,018	6.7%	15,754	-70.3%	
一般正味財産期末残高	53,018	15,754	-70.3%	10,273	-34.8%	
指定正味財産増減の部	▲ 110	▲ 19,498	17625.5%	8	-100.0%	
指定正味財産増減額	▲ 110	▲ 19,498	17625.5%	8	-100.0%	
指定正味財産期首残高	120,658	120,548	-0.1%	101,050	-16.2%	
指定正味財産期末残高	120,548	101,050	-16.2%	101,058	0.0%	
正味財産期末残高	173,566	116,804	-32.7%	111,331	-4.7%	

(※) 負の数の場合は、マイナス記号(-)を付けて入力すること。

※行については、適宜、追加・削除、区分修正可。ただし、設定した計算式に影響を与えないこと。

※財務諸表を添付すること。

## 第三セクター情報公開シートⅡ（財務諸表等）

キャッシュ・フロー計算書（C/S）	区分	平成22年度期	平成23年度期	前期比	平成24年度期	前期比
	事業活動によるキャッシュ・フロー	4,998	▲ 51,167	-1123.7%	▲ 4,537	-91.1%
		4,998	▲ 51,167	-1123.7%	▲ 4,537	-91.1%
	投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 3,484	27,243	-881.9%	▲ 684	-102.5%
		▲ 3,484	27,243	-881.9%	▲ 684	-102.5%
財務活動によるキャッシュ・フロー	0	0		0		
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0		0		
現金及び現金同等物の増減額	1,514	▲ 23,924	-1680.2%	▲ 5,221	-78.2%	
現金及び現金同等物期首残高	37,032	38,546	4.1%	14,622	-62.1%	
現金及び現金同等物期末残高	38,546	14,622	-62.1%	9,401	-35.7%	

（※1）支出は、マイナス記号（-）を付けて入力すること。

（※2）負の数の場合は、マイナス記号（-）を付けて入力すること。

## 2 市による財政・金融支援等（金額単位：千円）

区分	平成22年度期	平成23年度期	前期比	平成24年度期	前期比
補助金（交付金・助成金・負担金）	21,368	5,700	-73.3%	0	-100.0%
事業費補助金（交付金・助成金・負担金）	21,368	5,700	-73.3%	0	-100.0%
管理費補助金（交付金・助成金・負担金）					
委託料及び指定管理料	116,966	42,190	-63.9%	85,369	102.3%
借入金（期末残高）	0	0		0	
短期借入金					
長期借入金					
出資・出捐（期末時）	120,000	100,000	-16.7%	100,000	0.0%
債務保証額（期末残高）					
損失補償額（期末残高）					
その他の財政支援・優遇措置（税、使用料、手数料の減免等）					

※行については、適宜、追加・削除、区分修正可。ただし、設定した計算式に影響を与えないこと。

※財務諸表を添付すること。

## 情報公開シートⅡ補足資料

No.	シート項目	補足の概要	詳細
1	貸借対照表	資産の状況について	<p>平成 22 年度と 23 年度の比較については、指定管理・舞台管理委託業務の停止及び芸術文化事業の縮小により、これらにかかる収益及び経費とも減額している。新たな業務として実施した避難所等管理運営事業、ささえあい拠点センター管理運営事業等にかかる収益及び費用を増額しているが、これを相殺しても収益が大きく減額したため、総体として平成 23 年度は赤字決算となった。このことにより、基本財産及び特定資産の取崩しを行ったため、平成 22 年度と 23 年度の比較で流動資産が▲35,832 千円・前年比▲62.0%、固定資産が▲31,268 千円・前年比▲21.3%と大きく減額した（貸方の流動負債▲62.0%＝事業管理費の減額、正味財産▲32.7%＝基本財産の取崩しと事業収益減も同様）。</p> <p>平成 23 年度から 24 年度にかけては、文化施設舞台管理業務及び芸術文化事業業務にかかる収益が増額したが、今後の経営方針が定まらない中での緊急措置として、職員の人件費を 15%カットして経費の削減を図った（流動資産▲16.6%は増額した現金預金と減額した未収金の相殺、一般正味財産▲34.8%は事業費・人件費等が充分確保されない中での事業収益減）。</p>
2	正味財産増減計算書	資産の状況について	<p>平成 23 年度期の経常収益は、芸術文化事業収益と指定管理事業収益の減額が大きく経常費用抑制に努めたが、結果として一般正味財産増減は▲37,264 千円・前年比▲1223.8%となった。なお、指定正味財産増減額▲19,498 千円は、基本財産を取崩し一般正味財産に振替えて経費としたもの。</p> <p>平成 24 年度期は、経常収益（委託料など）の増額と人件費カット等による経常費用の減額もあり、一般正味財産増減額▲5,481 千円・前年比▲85.3%と大きく経営を持ち直しており、平成 25 年度においては±0 以上を見込むものである。</p>

<p>3</p>	<p>キャッシュ・フロー計算書</p>	<p>資金繰りについて</p>	<p>平成 23 年度期の事業活動によるキャッシュ・フロー▲51,167 千円は、芸術文化事業、避難所管理事業、ささえあい拠点センター事業、財団管理費の費用等 101,289 千円と、避難所管理事業、ささえあい拠点センター業務の収益 50,122 千円の差額である。また、投資活動によるキャッシュ・フロー27,243 千円は、基本財産取崩収入と記念事業積立金取崩収入等である。両者（事業活動と投資活動）の差額が現金及び現金同等物の増減額▲23,924 千円となっている。</p> <p>平成 24 年度期の事業活動によるキャッシュ・フローは収益増(前期比約 40,000 千円)と費用の抑制(前期比約▲7,600 千円)等により▲4,537 千円・前期比 91.1%まで回復している。</p>
----------	---------------------	-----------------	--



## 法人に対する市の関与の考え方

### 公共施設の指定管理者の指定等、指定管理についての見通し

当財団は、平成元年の設立以来、市民会館や文化センター等公共施設の管理運営を担い、20年以上に及ぶノウハウの蓄積を有している。

施設間の連携を図り、一体的で包括的な管理体制により効率的な運営をするためにも、現有の河北総合センタービッグバン、遊楽館の文化施設については、平成26年度から当財団による指定管理を実施し、財団の運営体制及び経営の安定化を図り、将来開館予定の複合文化施設の指定管理を担うことができる法人となるよう、さらなる指導を徹底する。